

玉川温泉、大噴、岩盤浴地

日本で最も湧出量の多い玉川温泉の源泉からは、毎分約 8,400 リットルの湯が噴出します。この温泉の主成分は塩酸で、湯は pH1.2、日本一の強酸性です。塩酸は火山ガスに由来するため、この種の温泉は火山活動が非常に活発な地域にしか見られません。日本ほどの火山活動がある国でさえ、玉川温泉の湯の酸性度の高さは自然の驚異です。

温泉水の噴出口である大噴から噴き出る湯は 98℃ の高温です。噴き出た湯は幅 3 メートルの温水の川を形成します。この川と大噴、そして蒸気を噴き上げている噴気孔はすべて、玉川温泉自然研究路から見ることができます。玉川温泉自然研究路は、この温泉地域の敷地内にめぐらされた全長 1 キロメートル、徒歩 30 分ほどの散策路です。この研究路は地熱エネルギーで温められた岩盤のそばを通ります。ここでは、日本語で「岩盤浴」と呼ばれる石風呂を楽しめます。岩盤浴をするには、熱い岩盤の上にマットを敷き、毛布で体を覆って、心地よい温かさで筋肉をリラックスさせます。

玉川温泉は、1681 年に最初に発見され、1884 年に湯治と呼ばれる温泉治療の施設として営業を開始しました。1932 年以降、玉川温泉は有名な温泉保養地になりました。

1998 年に営業開始した近くの新玉川温泉にも、宿泊施設と入浴施設があります。両方の温泉は同じ源泉を利用しており、強酸性と高いラジウムの含有量に由来すると言われる湯の治療効果で人気があります。

多くの人々が湯の強酸性が有益であると考えていますが、入浴中肌に刺激を感じる可能性があります。このたっぷりした酸性の湯は完全に安全で、多くの訪問者にとっての最大の魅力です。しかし、両施設ではより低温・弱酸性の入浴の選択肢も多様に用意されています。玉川温泉の湯と岩盤浴文化が謳う健康への良い効果にひかれ、日本中から人々が保養に訪れます。